

「東部中学校区6小学校 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）
（漕代小学校）

日時：令和6年6月5日（水）19:00～20:36

場所：漕代小学校 体育館

出席者：

【地域住民・保護者】44人

【学校関係者】11人

【教育委員会】教育長 中田雅喜

事務局長 刀根和宜

事務局次長 金谷勝弘

教育総務課長 西浦有一

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

【市議会】奥出かよ子 西口真理 山本芳敬（五十音順・敬称略）

挨拶：教育長

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

これまで、「子どもたちの学ぶ環境」や「先が読めない時代に身に付けさせたい力」について、多くの方々にご議論をいただきました。そして、ひとつの方向性が見えてきましたので、本日はその方向性をご説明いたします。

皆様からの忌憚のないご意見を、よろしくお願いたします。

教育委員会自己紹介

資料説明：事務局

資料『松阪市立東部中学校区6小学校 再編活性化に関わる意見聴取会』

（4ページ）

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」（文部科学省）が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

（2・3ページ）

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」を1学級20人程度とした。

・東部中学校区6小学校のうち5校が対象校であることから、東部中学校区全体で再編活性化の検討を開始した。掃水小学校は対象校ではないが、学校規模としては「小規模校」に分類される。

(4ページ)

- ・令和5年度は、各小学校区において、学校との関わりが深い方々から意見交換を開始した。
- ・住民自治協議会からの提案を受け、「東部中学校区学校活性化協議会」を設置し、各小学校区から保護者代表・住民代表・学校運営協議会代表・学校代表が集まって議論を重ねた。
- ・第3回東部中学校区学校活性化協議会において、再編活性化の方向性が確認された。

(5・6ページ)

- ・「6小学校を1校に統合する」という意見もあったが、最終的に「複式学級を早期に解消する」ことを最優先に、「6小学校を2校に統合する」方向で、学校活性化協議会で案を取りまとめていただいた。
- ・学校活性化協議会内に設置する準備部会は、地域・学校運営協議会・保護者・学校の代表者で委員を構成する。検討内容としては、校名・校歌・カリキュラム・学校運営協議会組織・学校予算・学校備品・通学路・スクールバス・学童・PTA組織などがある。
- ・『学校活性化協議会だより』やホームページで周知を図る。
- ・配慮すべき主な事項⑤「新入学児童に対する配慮」については、統合が具体的になるにつれ、要望する声をいただくようになった。今後、準備部会で協議いただきたい。

(9ページ)

- ・「地域総ぐるみでの教育」として、コミュニティ・スクール、探究的な学習、小中連携教育を3本柱として取り組む。
- ・コミュニティ・スクールについては、中学校区で連携・協働できる組織を構築する。今後は、クラブ活動の地域移行やPTA組織についてなども、学校運営協議会で検討をしていくことが考えられる。
- ・校区が広がることを利用して、現在取り組んでいる「探究的な学習」をさらに充実させていく。それにより、子どもたちと地域の方々が繋がる機会にもなる。また、子どもたちの地域に対する誇りや愛着心の育成にもつながる。
- ・コミュニティ・スクールや探究的な学習を支えるために、「小中連携教育」を推進する。また、就学前教育との連携も図る。

1年をかけて、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、学校活性化協議会委員の方々との議論を進めてまいりました。本日は、「子どもたちのより良い教育環境の実現」の観点から、皆様のご意見をお聴かせください。

質疑応答

参加者

榊田川を渡ることが一番気になっている。以前、東部中学校の生徒が、左折車に巻き込まれたのを見たことがある。

地域のボランティアが同行していれば、事故を未然に防いだり、軽減できたりすることもあると思う。統合校においても、ボランティアの募集は続けていただけるのか。

事務局

日頃は、子どもたちが安全に登下校できるよう、ご協力いただきありがとうございます。

通学路やスクールバスの運行については、今後準備部会で検討していきます。ただ、いずれにしても地域のボランティアの方々のご協力なしでは運営できませんので、これからも続けていただく方向でお願いしたいと考えています。

参加者

スクールバスを絶対に出してほしい。交通量が多く、大人でさえなかなか道を渡れない。学校に近い地区の子どもたちも、徒歩は止めてほしい。ボランティアの見守りでは限界がある。

事務局

スクールバス導入の要望が多いことは認識しています。現段階で確定したことは申し上げられませんが、これからしっかり協議して進めていきます。

参加者

極力お願いしたい。

参加者

学校はコミュニティの核である。廃校になった地域の過疎化が加速したり、統合校でいじめの問題が起きたりした話を聞いたこともある。たくさん問題があるので、それぞれのメリットやデメリットをきちんと把握して、改善を図っていただきたい。

避難所としての機能は続くみたいだが、「交付金はどうするのか」「管理はどこがするのか」など、しっかり考えていただきたい。

教育長

学校がコミュニティの中心であることは、昔も今も変わりません。

「子ども達の学ぶ環境」という視点では、少人数教育は課題が多いと思います。10年先が見通せない状況において、子どもたちに必要な力を身に付けさせるためには、協働的な学習が欠かせません。だからこそ、大人の責任で、子どもの学ぶ環境を整える必要があります。

今後、準備部会で議論をしていただきますが、教育委員会からは様々な情報を提供していきます。適切な跡地利用が、地域の活性化に繋がっている事例もありますので、しっかり議論を深めていただきたいと思います。

いじめの問題については、しっかり対応していきます。例えば、今いる先生を統合校に配置したり、スクールカウンセラーや相談員をきちんと配置したりしていきます。人数が少ない学校から多い学校へ行く不安があるかもしれませんが、一人一人の子どもに寄り添った対応をしていきます。「激変緩和」のために、県に加配を要望していきます。

また、めざす学校像を地域の方々とも共有し、カリキュラムをしっかり作っていきます。

事務局

学校跡地の用途については、地域で決めていただきます。用途に応じて、所管する部署に引き継ぐこ

とになります。それまでは、教育委員会が管理することになります。

参加者

漕代小学校が無くなれば、校章や校歌も無くなる。文化祭や運動会、野菜作りなど、漕代小学校の文化も無くなっていくのではないかと心配している。

教育長

「子どもの学び」について議論をしていただく上では、両校は対等であると認識しています。

先行事例では、文化祭に地域の方を呼んだり、地域の課題を地域の方と一緒に考える学習をしたり、廃校になった学校の畑を活用して野菜作りをしたりするなど、様々な工夫が見られます。今後の協議の中で、学校運営についても議論していきます。

参加者

漕代小学校は、今年創立 140 年を迎えた。掃水小学校との統合により、142 年目で漕代小学校が無くなることになる。ただ、そのことについて申すことはしない。

先程、「スクールバスを全ての町に走らせてほしい。」「地域のボランティアを引き続き募集してほしい。」という意見があった。この頃は、通学の時間帯に限って雨が強かったり、風が強かったりする。傘を差していても、子どもたちは濡れて学校へ行っている。子どもたちを見ていて、可哀そうでならない。

三重交通などの企業にスクールバスを用意してもらうのも良いが、各地区で団体を作って、乗用車を用意して送っていくという方法も考えられる。バスだと何台か頼まないといけなくなるので、バスが良いとは限らない。

早馬瀬町の子どもたちでも、櫛田橋を渡って 1 km は歩くことになる。

教育長

漕代小学校 140 年の歴史を、諸先輩方が築いてきていただいたことに、感謝申し上げます。

スクールバスの運行については、限られた予算の中で、安心・安全・効率的に運行できるよう、子どもたちの状況を見ながらしっかり議論をしていきます。

近年の悪天候や異常な暑さには危機感を持っています。現在でも、暑さ指数が一定数を超えたら、運動クラブを禁止するなどの対応をしています。大雨が降った際には、始業時間を遅らせるなどの対応も必要だと考えています。子どもたちの安全・安心のために、弾力的に対応していきたいと思います。

参加者

スクールバスを市の予算で完備していただきたい。アメリカの田舎では家々が離れているため、スクールバスが完備されている。漕代小学校でも、橋を渡る必要があることから、ぜひスクールバスの予算を確保していただきたい。

小学校の跡地活用について、教育長から事例を紹介していただいた。学校が無くなるとコミュニティの力が無くなる。運動会で、漕代小に集まることも無くなる。ぜひ、地域の皆さんが集まれるような使い方を考えていただきたい。

放課後児童クラブについては、掃水で運営するのか。漕代で運営するのか。

事務局

スクールバスについては、最終的には準備部会で決定していくこととなりますが、保護者や地域の皆さんが切望されていることを改めて感じました。

学校跡地については 教育委員会から活用事例を提示させていただいたり、地域の皆さんからご提案をいただいたりして、協議していきたいと思います。

文化祭や運動会については、自治会やまちづくり協議会の皆さんにもご協力いただいていることと思います。学校行事については、統合前であれば準備部会で、統合後には学校運営協議会で協議をしていくことができると考えています。

放課後児童クラブについては、「統合しないでほしい。」という声が多いと認識しています。放課後児童クラブが漕代にあることで、放課後に遊んでいる子ども達と地域と方々との交流が生まれます。また、お迎えも来ていただきやすいと思います。最終的には準備部会で決定していきますが、原則残す方向で調整していきます。

参加者

統合すれば、教職員の予算が浮くことになるのか。

教育長

児童数に応じて配置される教職員の数が決められています。統合の際、子どもが不安定になりやすいこともあり、期間限定的に県に加配をお願いすることができますので、統合校で進めたい教育に応じた加配をお願いしていきます。また、スクールカウンセラーなどの配置も、しっかり要望していきます。

県費教職員の給料は県が払っているので、県の出費は減りますが、市は関係ありません。ただ、学校施設の維持管理については、浮いてくる部分もあると思います。

跡地の活用については、地域が主体となって活動していただくのが良いと思います。その支援は、教育委員会、または担当課がさせていただきます。

参加者

スクールバスの予算要望は出せないものか。

教育長

統合校にスクールバスを配置する場合には、国からの補助金が出ます。そのためには、通学距離などの条件を満たす必要があります。ただ、「その条件を満たさないからダメ」とするのではなく、費用対効果も含めて、皆さんの意見を聞かせていただき、子どもたちの安全・安心な通学環境に向けてしっかり議論していきます。

他市の事例では、ドアツードアで子どもたちを拾っていったことで、子どもたちの体力が落ちていったという報告もあります。また、通学団での登下校では、上級生が下級生の手を引くなど、子どもたちの自尊心の醸成も期待されます。

準備部会では、教育委員会から情報提供をさせてもらったり、本日皆様からいただいたご意見をお伝えさせていただいたりして、議論をしていただきます。そして、準備部会で決まったことは、教育委員会が発行する『学校活性化協議会だより』にて、皆さんに周知を図ってまいります。

参加者

孫が1年生になった時に、登下校のボランティアを始めた。孫だけでなく、通学団の子どもたち皆が可愛く思う。

ボランティアをしていると、子ども達の成長がよく分かる。上級生が下級生を指導するようになる。そういった通学団の良さも考慮して、検討していただきたい。

教育長

先日、20年間ボランティアをしてみえる方のお話を聞きました。

ある子どもが、結婚して奥さんを連れて会いに来てくれたそうです。当時、その子が学校に行きたくない時、ボランティアの方に「おはよう。」と言ってもらったことが嬉しかった、という話をしてくれたそうです。

子どもたちは、地域の方との人間的な触れ合いの中で、生きていく上で大切な何かを教えられているのではないかと思います。

今、学校では、教師がチョークと黒板だけで教える授業は少なくなりました。例えば「妹のピーマン嫌いを無くすためにはどうすればよいか。」などのように、生活の中の課題を見つけて、仮説を立てて、検証・議論を繰り返して、結論を導き出すといった授業が展開されています。

東京の大学で辛いことがあった時、ここから見える綺麗な夕日が目に浮かぶかもしれません。あるいは、ボランティアのおじいちゃんの姿や、田植えを教えてくれたおじちゃんの姿が目に浮かぶかもしれません。小学校が掃水に移ったとしても 子どもたちは漕代にいます。また、漕代での学びもあります。だからこそ、地域の皆様には、様々な形でご尽力・ご協力いただけたら有り難いと思います。

改めて、ボランティアをいただいている方々に、感謝申し上げます。

参加者

歴史ある漕代小学校がなくなるわけだが、掃水小学校も名前が無くなるので同じ。学校の思い出を何とか残していく必要があると思う。例えば、グーグルアースなど、デジタルを活用して残していくことも良いと思う。また、「マイクラ」というゲームを子どもたちが活用する方法も考えられる。1年半後には、子どもたちが遊んでいる風景や、作品が飾られている教室は無くなるが、何とか残せないかと思う。

子どもが特別支援学級に在籍している。1年生の5月に「学習障害」と分かった。2年生では、支援を受けることができている。

昨年の5月から今年の4月まで、子どもが「学校に行きたくない。」と言うことがあった。子どもが学校を休むと、私自身も仕事を休まないといけなくなるなど、親に負担がかかってくる。今思うと、保育園の時から気がかりな点があった。今年度の内に、漕代小学校の子どもたちにもそういう兆候がないかよく見ていただき、掃水小学校と連絡を取るなど連携を図っていただきたい。

今年度、掃水小学校のPTA役員をしているが、漕代小学校のPTAとの連携の話は何もない。正直、遅れていると思う。

子ども達がスムーズに学校に通えるように、私自身も頑張りたいと思う。

参加者

教育長の話聞いて、学校の先生方に助けられていることを感じた。

漕代小学校がなくなることは大変寂しいが、子どもたちのことを考えると、ひとつの教室に少なくとも 30 人は必要だと思う。日本の教育を守っていくためには、「統合」は間違いではないと思う。

統合して子どもたちが育っていくことを期待している。

教育長

時間がないので、端的にお話します。

学校記念品、閉校式典については、(教育活動の一環として)各学校でしっかり取り組んでいきたいと思えます。そのために教育委員会もしっかり支援していきます。

特別支援学級については、年度毎に就学支援委員会を開催して判断しています。教育長としてしっかり取り組んでいきたいことのひとつが「特別支援教育」です。

タブレットは非常に有効です。「経済格差が教育格差に繋がってはいけない。」という市長の考えから、本市では LTE モデルを採用しています。教育が「誰一人取り残さない」として取り組んでいることが、「子育てをしやすいまち」としての評価に繋がっているのではないかと考えています。

漕代小学校の先生方が、日々子どもたちに寄り添っていただいています。

地域の方々が学校教育に対してご理解・ご協力していただいていることに、感謝申し上げます。

局長

たくさんのご意見をありがとうございます。

本日いただいたご意見を、今後の準備部会にしっかり繋げていきたいと思えます。